

餓えたオオカミと老婆

餓えたオオカミが獲物をさがして、うろついていました。遠くで子供の泣く声がしたので、急いで近づいてみると、泣いている子供に、おばあさんが「いつまでも泣いていると、オオカミに食わせてしまうよ。」とっていました。

これを聞いたオオカミは、おばあさんの云っている事が本当の事と思い、そこで待つことにしました。しかし、子供が泣き止むと、今度は子供の機嫌をとりながら「良い子だね本当にオオカミが出てきたら、おばあさんが殺してやるよ。」これを聞いたオオカミはあわてて逃げさりました。



オオカミとロバ

たくましいオスに率いられたオオカミの一群がいました。このオスは群れのために法律を定めました。その内容はそれぞれが狼で獲得したものは、みんなが話し合いで分配し、獲物が取れなかった者にも分け与えて、それぞれが、いがみ合うことの無いようにしました。

そこへやってきたロバが首を振りながら「オオカミの大将が立派な事を考えたものだ。しかし、オオカミの大将よ、君はなぜ昨日の獲物を自分の穴ぐらへ、しまいこんだのだ、それもみんなに分配するのが当然だろう。」ロバに、やりこめられたオオカミの大将は、その法律を取り下げてしまいました。



遭難した男と海

突然の嵐で遭難した船から脱出し、岩に叩きつけられた男はしばらく気を失っていましたが、ようやく正気にかえた時海にむかって叫びました「お前はいつもそうなんだ、朝は静かだった、やさしい顔をしていた、だから我々は海へ出たんだ、そうすると何時も裏切って破滅に追い込むんだ、いったい何故なんだ」すると海は女の姿になって「いいえ 私を責めないで風を責めてください。私はいつもあなたが言っている通り静かな姿なんです。しかし風が私を襲ってきてこの様なことになるの」

